



よすみちゃん

弥生の出雲王に出会える

季刊

第48号

(2023年1月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★冬季企画展

「鉄と船でたどる出雲」

「古文書をひもとく」

開催中〜2月6日(月)

当館で現在開催中の冬季企画展では、1月5日から古文書資料の入れ替えを行っています。今回はその一部をご紹介します。

後期から展示をはじめた古文書の一つに田儀櫻井家文書「年々見合帳」があります。田儀櫻井家の歴史を知るうえで重要な文書の一つです。その中には鰐淵寺山や鵜峠(現・大社町)など、現代に残る出雲の地名もみえます。これらは、木炭の産地として名前があげられており、田儀櫻井家がこれらの土地から木炭を収集していたことがわかります。

そのほか、鷺浦(現・大社町)で明治後期まで船宿を営んだ輪島屋家に残る文書「船の通行手形」は明治4年1月に発行された船の航行許可書で、まだ松江藩の役人が署名しています。同年7月の廃藩置県が発令され、島根県が発足し、その後もこの許可証が有効だったかどうかは不明ですが、時代の過渡期に残った、江戸時代のなごり

が見える史料です。

今回ご紹介した以外にも、多くの史料を展示します。古文書を読むのは難しい、というイメージがありますが、このように、地名や固有名詞を見つけただけでも、分かることがたくさんあります。普段生活をしていると、古文書に触れる機会はなかなかありません。この機会に、出雲に残る古文書をひもといてみませんか。

(永川ひかる)



輪島屋文書「船の通行手形」



★日本博「出雲の神楽」開催!

東京2020



オリンピック・パラリンピックを契機として、「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えるというテーマ

マでスタートした「日本博」事業。令和2年1月に東京国立劇場で上演し、満員の観客を魅了した「出雲の神楽」を地元出雲で再演。島根の代表的な出雲神楽をぜひご堪能下さい。

◆日時：令和5年1月29日(日)

第1部：午後2時開演

第2部：午後6時開演

※各部で演目が異なります。

◆会場：大社文化プレイスうらら館

◆出演：大土地神楽保存会神楽方 佐陀神能保存会

◆入場料：1部・2部別

一般前売各800円、中学生以下前売各500円(セット券あり) 全席自由席

◆プレイガイド：大社文化プレイスうらら館・当博物館ほか、ローソンチケット(Lコード：63621)

(安田晋也)

★ギャンラリー展Ⅱ

「いにしへのボードゲーム

―双六・樗蒲・囲碁・将棋―

開催中(2月27日(月))

日本で古代から長く親しまれたボードゲームには、双六・樗蒲(かひうち)・囲碁・将棋がありました。今回は、囲碁と将棋についてご紹介します。

囲碁の始まりは中国で、紀元前に著された『論語』『孟子』などの古典にすでに囲碁が登場します。

『隋書』東夷伝倭国条(636年成立)に、倭人は囲碁・双六・樗蒲を好んだとあり、飛鳥時代には日本でも囲碁が知られていたようです。大宝2(702)年に遣唐使の一行として唐に渡った留学僧・弁正は、即位前の玄宗皇帝と囲碁を通じて親しくなり、唐で生涯を終えたという逸話もあります。囲碁は古代の東アジアで共通のボードゲームであったと分かります。

出雲では、古墳時代に勾玉や管玉など多様な玉が生産されましたが、奈良・平安時代には黒・白二色の平玉が主に作られ、その形から碁石の用途が想定されています。古代出雲の人びとも、囲碁に

興じていたのでしょう。

将棋が日本で興じられ始めたのは、平安時代中期(11世紀)のことです。将棋と同様のゲームに中国の象棋や朝鮮半島のチャンギがあります。駒の形や文字の種類は日本独自です。「玉」「金」「銀」などの文字は仏教の経典に由来するとされ、日本の将棋の成立には僧侶が関わったと推定されています。

出雲市でも高浜I遺跡で日本最古の将棋盤(室町時代)が見つかっており、そのころには将棋が出雲で知られていたのでしょう。

囲碁や将棋はいずれも東アジアを経由して日本に伝わっており、海を越えた人びとの交流がボードゲームを通して分かるのです。

(高橋 周)



奈良時代の平玉(松江市・岩屋遺跡)
(島根県埋蔵文化財調査センター蔵)

★連携事業

「弥生・青銅器でつながる

弥生ブロンズネットワーク

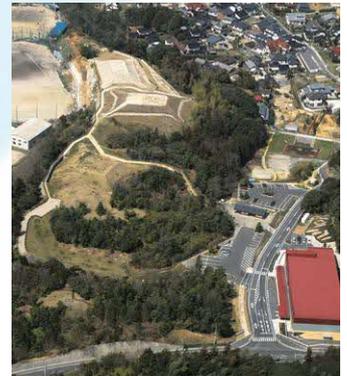
全国的にも特色ある遺跡が集中する出雲地方。その古代出雲の魅力伝えるため、弥生・青銅器でつながる島根県内の博物館4館が「弥生ブロンズネットワーク」として連携して活動しています。

今年度は、2・3月に4館の職員リレー講座(フィールドワーク)を開催します。

新型コロナウイルスの影響で、当館では3年ぶりの開催となります。今回は、最初の出雲王の墓である西谷3号墓と、日本最大の四隅突出型墳丘墓である西谷9号墓を中心に、春の西谷墳墓群を散策します。動きやすい服装でご参加ください。

①加茂岩倉遺跡を歩く 2月23日(木・祝)
②出雲大社周辺を歩く(仮) 3月11日(土)
③神庭・荒神谷遺跡と宇夜都弁命の降臨地をめぐる 3月12日(日)
④西谷墳墓群を歩く 3月18日(土)

【受講料】 無料(荒神谷のみ保険料として100円いただきます)
【時間】 10時~(加茂岩倉のみ9時から遺跡ガイダンスを行います)
【申込方法】 電話またはFAX
【申込先】 古代出雲歴史博物館
電話 0853-53-8600
FAX 0853-53-5350



西谷墳墓群(南東から)

「弥生の御朱印巡り」

弥生時代の魅力を発信することを目的に、西日本の主要弥生時代遺跡19遺跡とその関連施設20施設が連携して「弥生の御朱印巡り」を行っています。近畿地方から九州まで、広域に及ぶ弥生時代遺跡の関連施設が連携する日本初の企画です。

島根県からは出雲市(出雲弥生の森博物館、荒神谷博物館)、雲南市(加茂岩倉ガイダンス)が参加しています。

お気に入りのノートやメモ帳を用意して、ぶらりと遺跡巡りの旅はいかがでしょう。

(企画・鳥取県)



御朱印
(西谷弥生国王印影)



保存修理工事の様子（屋根材解体）

★旧大社駅保存修理事業
 「保存修理後の姿は？」
 旧大社駅保存修理事業は、令和4年度で3年目を迎えました。解体工事はほぼ終了し、建物の破損状況や建物の歴史が明らかになってきました。
 建造物は建築された時点から、様々な手が加えられる運命にあります。国宝や重要文化財もその例外ではなく、旧大社駅においても、様々な改築がみられました。今回の解体修理にともなう調査結果をもとに、解体された部材や古写真などの史料を参考にしながら、建設された大正13年に近い「昭和初

★速報展 旧大社駅 瓦のデザイン

旧大社駅の瓦のデザインを紹介する速報展を開催します。旧大社駅のシンボル「亀の瓦」の実物も展示します。

■会期
 2月1日(水)～
 5月29日(月)

■場所
 出雲弥生の森博物館
 亀の瓦(留蓋)▶



期」の様子に復原する予定にしています。
 一方で外観は、瓦の一部に変化が見られる程度で、建築当時の姿をよく留めています。当初の場所から移築されることなく、ほぼそのままの外観を保ち、今日まで引き継がれている全国でも数少ない駅舎建築であることを改めて確認しました。
 令和4年度の後半からは、いよいよ組立工事に着手しています。あわせて地震に強い建物にするための対策も進めます。(吾郷 誠)

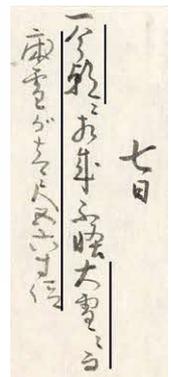
★古文書の森をゆく ⑬
 「お殿さまの鷹狩」



雲地域の主な狩り場は斐川平野で、黒目には鶴の飼育場が、隣の斐川町原鹿には鷹役所が置かれました。

9代藩主松平齊貴は、歴代のなかでも特に、鷹狩を好んで行っています。平田町で町役人を務めた本石橋家の日記には、天保10(1839)年9月、齊貴が黒目村で鷹狩をするので、宍道湖北回りで平田町を経由するお触れが出た、とありました。日記を読み進めると、その日は鷹狩からいつまでたっても齊貴が戻らないので、心配したとの気持ちが続られています。帰り道の支度や万が一、平田町で宿泊になることも考えてい

渡り鳥が飛来する季節になりました。江戸時代には、この時季になると、お殿さまの恒例行事である鷹狩が始まります。獲物となる鶴や雁・鴨などを捕獲するため、松江藩内の大橋川流域や楽山(松江市西川津町)・斐川町黒目・西園・大塚などへ出かけました。出



大雪のことが書かれた日記

一、今朝・・・大雪にて床雪が巻尺五・六寸位たのでしよう。結局、午後6時にとり帰路に着いたようです。

また同年12月、齊貴が黒目村と西園村へ出かけたとき、平田町で約45cmの積雪がありました。この天候での外出は大変に思いますが、雪の中の鷹狩は趣の深い風情あるものとして好まれたそうです。

こうした鷹狩は、単なる狩猟としてだけでなく、武士にとって重要な伝統儀礼でした。江戸時代に鷹狩ができるのは、基本的に將軍や大名に限られ、將軍のもとには、鷹の産地である東北諸藩から若鷹が、また全国の大名から捕獲した鶴が献上され、贈答を通じて將軍と大名の主従関係を示していました。さらに、將軍へ届く鶴のうち最上の品は天皇へ献上されるなど、江戸時代の「鷹・鷹狩」は権威の象徴として機能していました。(春日 瞳)

★展示のご案内

▼冬季企画展

開催中〜2月6日(月)

「鉄と船でたどる出雲

〜古文書をひもとく〜

●ギャラリートーク

1月21日(土) 10時から

▼ギャラリー展

開催中〜2月27日(月)

「いにしへのボードゲーム

―双六・樗蒲・囲碁・将棋―

●ギャラリートーク

1月15日(日) 10時から

▼速報展

好評開催中〜1月30日(月)

「その土器なぜ伏せた?」

―大塚遺跡の発掘調査速報―

▼速報展

2月1日(水)〜5月29日(月)

「旧大社駅 瓦のデザイン」

★クラウドファンディング

始めました

当館では、マスコット

「よすみちゃん」の

着ぐるみをリニューアル

するため、2月

1日までクラウドファンディング

を実施しています。

応援よろしくお願ひします!



▲特設サイトはこちらから

★講座・講演会のご案内

▼文化財保護審議会委員講座

① 1月28日(土) 14時〜16時

「中世の出雲大社と仏教

―新出の北島家文書を手がかりに―

●講師 井上 寛司 氏

(島根大学名誉教授)

② 2月11日(土・祝) 14時〜16時

「菱根新田の開発と三木与兵衛

―松江藩における村の開発過程―

●講師 多久田 友秀 氏

(島根県近世史研究会会員)

③ 2月25日(土) 14時〜16時

「島根県内の狩猟儀礼

―江津市山中地区の調査から―

●講師 浅沼 政誌 氏

(島根県古代文化センター

主任研究員)

●受講料 各300円

※最新情報は博物館ホームページ

をご確認ください。

講座・講演会の申込について

定員 各50名 当日受付なし

事前申込必須(電話・FAXのみ)

●申込受付時間 9〜17時

●必要事項 氏名・電話番号・住所

※講座当日は、マスク着用、手指消毒、

体温測定にご協力ください。

★館長古来夢

昨年10月、京都で開催された文化庁の研修会に参加した。国指定の建造物所有者およびそれを管轄する行政担当者を対象とする会だった。直近に雷被害で被災した香川県坂出市神谷神社(国宝、鎌倉時代)の状況やそれを避ける方策などが報告された。そして、もう一つの柱がクラウドファンディング。文化財保護や修復にどのようこのシステムを活用するか、成功事例の紹介とともに示された。

2日目は建造物とその修理現場の見学。天台宗三門跡の一つ、妙法院庫裡の修理現場と同寺の堂宇三十三間堂をみた。妙法院庫裡は、戦国時代の文禄年間(16世紀末)京都大仏を造営した豊臣秀吉が母の供養のための法要を催し、大仏殿(妙法院の北西にあった)に僧千人を集めた。その折に彼らに食事ふるまうための台所だった建物である。無骨な梁材に豊臣の時代を感じさせた。

江戸時代に三度の修理を経ていたが、その度に新調した瓦に修理瓦であることを明記していた。カノンディアのアンコール遺跡群で

フランスが採用した、固有材料と修理材料とを区別する「アナステイローゼス手法」の先取りだ。

見学会が終わって境内を見て回っていると、巨大なソテツが目撃された。説明看板がある。日泰寺(名古屋市)に関わるらしい。明治時代、廃仏毀釈の波に抗う日本仏教界は、タイ王国から仏舎利を拝領しようとした。それを推進した「日本菩提会」の初代会長は村田寂順とある。名前をみてビックリ。寂順師は松江の生まれで鰯淵寺にて得度受戒。明治維新の混乱から同寺を救い、1874年に妙法院住職のち天台座主に就任した人物。図らずも郷土の偉人と遭遇し縁を感じた京都での秋の日だった。

(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館 2023年1月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料/無料
- 開館時間/9:00~17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日/火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始

